

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -----)

事業所番号	0670800655		
法人名	社会福祉法人 光風会		
事業所名	グループホーム はまゆう		
所在地	山形県酒田市宮野浦3丁目20番1号		
自己評価作成日	令和 3 年 8 月 24 日	開設年月日	平成 14 年 9 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おもてなしの心でホームの理念「ゆったり、たのしく、笑いのある時を」を挙げ毎日、一人ひとりのペースに合わせて支援しています。昔ながらの伝統行事、ボランティア、地域の方々との繋がりを大切に、利用者様の願い・思いを引き出してサービスを提供しています。テラスの前の畑では、夏野菜などを植え新鮮な野菜を収穫して食べています。利用者様の方々は、共に助け合い、支え合い、楽しみを共有しながら生活されています職員は、人生の大先輩である利用者様の方々から、日々、いろいろな事を学び、共に喜び、楽しく過ごさせていただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和3年 9月 21日	評価結果決定日	令和3年 10月 4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多様なリクリエーション・体操に力を入れ、利用者の機能低下の防止や自立支援に取り組むとともに、利用者の出来ることや好きなこと、役割などを提供し支援していくことで以前の暮らしを大切に、生活感のある、「ゆったり、楽しく笑いのある時を」提供している。リクリエーションでは職員の掛け声とそれに対する利用者の笑い声が聞こえ、家庭的で笑顔ある時間であった。研修も法人による研修や事業所の時宜に応じた研修を毎月行うとともに、受講者が研修アンケートを作成し、習熟度や意義を確認することで、質の高い学びの場となっている。一昨年の目標達成計画にも真摯に取り組む、サービスの向上に活かすとともに、常に問題意識をもって積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ホーム内に当事業所の理念「ゆったり、たのしく、笑いのある時を」と「地域に感謝、貢献できるホームを目指します」を挙げ職員が日々頭に入れ意識し支援している。	理念を共有スペース(見やすい場所)に掲示し職員への意識付けを行っている。管理者は会議等折に触れて利用者への対応につき、普段のケアを振り返りながら職員に指導、話し合いを行い、理念の共有と実践状況を確認している。多様なリクリエーションや利用者の出来ることを支援していくことで、「ゆったり、楽しく笑いのある時を」大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業所が自治会の会員となっているが自治会の行事等への参加が、新型コロナウイルス感染状況によって日常的に困難になってきている。	例年では地域の運動会やコミセンの行事へ利用者と一緒に参加するなど、地域との交流を大切にしていた。感染症対策もあり、今年度は少なくなっている。しかし、理念に掲げるとおり、地域の中で認知症介護の社会資源としての役割を果たすべく、地域の100歳体操に参加し認知症予防など高齢福祉の啓蒙活動を行っている。地域への情報発信として「はまゆうだより」を配布し、事業所の状況等への理解を推進している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の100歳体操の時間を活用して、認知症予防講座に向け活動を行っている。また、はまゆうだよりを配布して、はまゆうの活動内容を伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、新型コロナウイルス感染予防の為、2ヶ月に1回書面での意見照会を行い、資料を職員間で回覧しサービスの向上に繋がるように努めている。	自治会長、民生委員、包括職員、市職員で2か月に1回開催している。現在は感染症対策もあり、書面による開催となっている。行事や利用者の日常風景がわかる「はまゆうだより」を配布し報告を行っている。各委員に簡潔な書式の意見照会を配布し様々な意見をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、新型コロナウイルス感染予防の為、書面での意見照会を行い、酒田市介護保険課、地域包括支援センターの担当者や自治会長、民生委員の方々から書面にて情報交換や連絡等を行い関係を築くように努めている。	運営推進会議の報告により事業所の状況の報告が行われている。利用者の個別の問題等は直接窓口と協議し解決に向け協調している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束マニュアルがあり、内部研修を定期的に行っている。また、防犯安全対策の為、16時30分から翌日6時30分まで玄関に鍵を掛けているが、他は見守りを行い身体拘束のない支援を行っている。	法人の委員会に参加している。マニュアルや事業所での研修もあり、職員に周知している。研修では研修後の職員のアンケートがあり、普段のケアの振り返りの機会となっている。職員は、利用者の危険につながる行為には、その原因や兆候を話し合い共有しながら、寄り添って見守り不適切な対応の無いよう努力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について内部研修を行い、各自で「虐待の芽チェックリスト」で確認をしている。また、職員間で声を掛け合い、虐待を見過ごさないように努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業については資料を見れるように回覧している。成年後見人制度について研修を実施し学びの機会を設けている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書や重要事項説明書の説明を行い、不安や疑問点を確認しながら、納得、理解してもらっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様には日常生活の中で、ご家族様は、面会時や連絡があった際に話す機会を持ち、要望や意見を聞き、反映させるようにしている。また、「はまゆうだより」を運営推進会議出席者やご家族に配布。宮野浦地区に回覧してもらうことで知ってもらう機会を作り、玄関先には意見箱を設置している。	例年では、家族との行事や面会等があり、信頼関係を大切にしてきたが、感染症対策もあり機会が制限されている。その分電話等による現状報告を密にしている。リモートによる面会の工夫も始められている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員連絡ノートを活用したり、職員会議を開催し意見・提案・改善など話し合う場を設け反映に努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・法人で人事考課を取り入れており、成績が給与に反映するシステムを取り入れている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・施設内外の研修に参加して、ケアについて確認や見直す機会を作り自己啓発を促している。	人事考課として、法人の理念や事業所の理念の実現のため職員が自己評価を行い、目標を作り、期中でその実践状況を確認し、管理者等が指導することで職員の質の向上につなげている。研修も法人による研修や事業所の時宜に応じた研修を毎月行うとともに、受講者が研修アンケートを作成し、習熟度や意義を確認することで、質の高い学びの場となっている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム連絡協議会の会議や研修に書面で参加(新型コロナウイルス感染予防の為)しサービスの質の向上に繋げている。	山形県グループホーム連絡協議会に参加し、研修や情報交換の場としてそのネットワークを大切にしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前面接時に本人の生活状況やニーズを把握し、誠意をもって話をし接することを心がけ、不安が軽減するように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族様に電話で(新型コロナウイルス感染予防の為)話をする機会を作りニーズを把握し親身な姿勢を持つことで関係づくりに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面接時のニーズを踏まえ、要望等があった際には対応できるサービスを検討し対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・調理、裁縫、買い物、畑仕事等の作業と一緒にする機会を持ち話をして教えてもらいながら、共感することを心掛け過ごしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・電話や面会時の状況報告や情報交換、毎月の生活状況の報告を踏まえ、また、本人にとってのより良い方向性を話している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・新型コロナウイルス感染予防の為、面会制限により電話のやりとりをしたり、ドライブで生まれ育った所に出掛けたりして関係が途切れないようにしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様と関わりながら、利用者様同士の代弁者となり、孤立しないように、職員が調整役となるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・法人の老人福祉施設に入所した場合等は、本人の様子を見に行ったり、電話にて、ご家族様から話を聞いている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、話をよく聞き、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。本人の表情、言葉から思いを感じ取る事に努める共に、ご家族様から情報提供や意見等を参考に支援している。個別活動では、本人の行きたいところに外出したりしている。	職員が利用者一人ひとりの、心身の状況を把握し、普段のケアの中で、会話やしぐさからの気づきを大切に記録に残し共有しながら、カンファレンス等で話し合い本人本位の意向の把握に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用前に、ご本人、ケアマネジャー、ご家族様からの情報収集に努めている。また、日常生活の中で、話を聞く機会を作り職員間で共有するようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの状況を観察し、個人ケースに記録と共に申し送りを行い、職員が情報を共有し本人の有する力を生活の場で継続していただけるように支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人、ご家族様から要望等を聞き、独自のアセスメントに職員全員から記入してもらい、計画に反映させ作成している。	6か月ごとモニタリングを行い計画の達成状況の把握及び評価が行われ、その変化ごと又は1年ごとに計画の見直しが行われている。6か月ごとカンファレンスが行われ、職員の意見を取り入れながら、利用者の好きなことや役割などを大切に、生活感のある暮らしの支援を大切にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人ケース記録に日々の様子や実践した事を記入している他、申し送りノートも活用し情報共有している。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防をしながら地域の文化祭へ作品出展し、本人の心身の力を発揮出来るように支援している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、ご家族様の希望の医療機関への受診や往診を定期的に行っている。受診時には、ご本人の健康面、生活面、バイタルを記入し医師に渡している。必要時には直接医療機関に連絡を取り、適切な対応を行うようにしている。	往診に来てくださる医療機関へは事前に状況報告を行い、適切な医療が受けられるよう工夫している。受診の際は家族による通院であるが、受診時状況報告書を用いて、事業所内での利用者の心身の状況が医療機関に提供され、受診結果が記されることで、医療機関、家族、事業所との情報の共有が図られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・毎日、体調記録を記入し法人の看護師に回覧している。また、体調に変化があった場合は、法人の看護師より診てもらい、適切な指示のもと、医療機関に連絡、受診するように体制を取っている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した場合は、情報提供を行い、定期的に病院関係者と情報交換を行い退院できるように努めている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	・利用前にご本人、ご家族様と事業所の方針を話し理解して頂くと共に、重度化した場合等、状況を見ながら早めにかかりつけ医や看護師と話し合い、方向性を確認している。	看取りまでは行っていないが、併設している老人福祉施設もあり、研修等を通して、職員による重度化に対応する研修等は十分に行われている。早い段階から事業所の出来ること、出来ないことの説明が行われ、状況の変化に応じて繰り返し話し合い終末期に向けた方針の共有を図っている。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルを回覧したり、法人の看護師より応急処置や初期対応について確認する機会を作っている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災、地震、津波、風水害、夜間の避難訓練を行っている。毎月11日、法人で防災無線訓練を行っている。また、法人の施設と一緒に地域合同の避難訓練を行っている。酒田市より防災ラジオを無償貸与してもらっている。	事業所単独または併設施設と合同により、2か月に1回程度訓練が実施されている。火災・地震等をはじめ多岐にわたる訓練を実施している。感染症対策もあり地域との合同の実施は見送られている。毎月防災無線による訓練も行われ、災害対策に真摯に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・日々の生活の中で誇りやプライバシーを損ねないように人格を尊重し一人ひとりに合わせた対応と言葉遣い、話し方やトーン等笑顔で話すことに気を付けている。	虐待防止の研修の際、「虐待の目チェックリスト」を使って、普段のケアを振り返り不適切な対応がなかったか確認している。職員等は普段のケアの中で不適切な対応がないようお互いに注意し合っている。接遇の研修も予定されている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・意思や希望が言えるような声掛け、環境作りを促し、会話の中から話が聞けるように働きかけをしながら本人の納得がいくように支援している。また、6ヶ月でプランの見直しの際にも再度確認している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・1日の流れはあるものの、各自のペースに合わせて無理なく希望に合わせて過ごしていただくようにしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご本人に任せているが、季節に合った服装や必要時には職員からそれとなく促し整えてもらったり、女性の利用者様は化粧を試みたり、馴染みの美容院にパーマや髪を染めに出掛けている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・旬の物、食べたい物を聞いたり、ホームの畑から、新鮮な野菜を収穫したり、調理の下ごしらえ、盛り付け、後片付けを一緒にしている。郷土料理や昔ながらの伝統行事食を大切にしている。	一昨年の目標達成計画に従い、献立の見直しなど行われている。例年では食材の買い物等へは利用者も一緒に行っていた。3食事業所内で調理され、利用者にもその役割をこなしていただき、家庭的な食事の提供が行われている。畑の収穫や利用者の好みを反映した、季節感のある食事に努めている。ひな祭り等行事食も多彩に計画され、食事を楽しむことが出来るよう工夫している		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ご本人の状態に合わせ、食事の量、形態(ミキサー・刻み)を提供している。ご利用者様全員の食事摂取チェックを行い、水分も定期的に摂ってもらい、摂りたがらない方にはご本人の飲みたい物を聞いて提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行っている。口腔状態を観察しながら出来るだけご本人からしてもらい、不十分なところは、声掛け、援助している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄チェックを行い、個々の排泄パターンの把握に努め、声掛け誘導を行い、失禁予防・減少に努め排泄の自立に繋げるようにしている。	排泄チェックにより適時の声掛け誘導によりなるべくトイレでの排泄に努力している。計画に具体的支援を位置づけ評価しながら自立に向けた支援を行っている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄チェックを行い排便の確認をしている。午前、午後の水分補給や毎食時にお茶や乳酸飲料を提供している。排便を促す為に便座のウォッシュレットを使用し肛門に刺激を与えてみたり、誘導時に腹部マッサージを試みたりしている。また、行進運動や体操を行い適度な運動の機会を設けている			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	・ご本人の気分や体調に合わせて入浴してもらっている。また、浴室に手すりを設置、滑り止めマット等を使用し、個々の自己能力で入浴できるようにしている。また、温泉が出る為、温泉をゆっくり堪能してもらっている。	好みに合わせて、入浴の支援を行っている。入浴を好まない利用者にも、声掛けや誘導の方法を工夫し、清潔が確保できるよう支援している。事業所は温泉を使用し、ゆっくり入浴を楽しむことが出来る。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入所前から使用していたベッドや布団の使用の継続、また、ゆっくり休まれるように季節に合わせて布団の調節をしている。ホールにはソファや椅子など、好きな場所でゆっくりできるように整えている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人のファイルに処方箋を入れて常に確認できるようにしている。薬の管理は職員が行い、職員2人で服用まで確認し、症状の変化があった際には、看護師、ご家族様、医師等に報告している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて、調理や掃除、畑仕事、裁縫等してもらっている。また、必ずお礼を言う事で張り合いが出るように努めている。レクリエーション等は個々に合わせたものを提供している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・新型コロナウイルス感染予防に努めながら、行事でお花見ドライブや紫陽花散策等に出掛けて景色を眺めリフレッシュしながら、希望に沿うように支援している。また、馴染みの美容院へ行ったりご家族様や地域の方にも協力してもらっている。	感染防止を行いながら、花見やアジサイ見学、酒田港などドライブを楽しむことが出来るよう工夫している。広い敷地内の散歩や畑仕事、事業所のデッキでのお茶会等外気に触れる機会も大切にしている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ホーム内の金庫で預かっている。必要時に、ご本人の財布からご自分で出して購入することもできる。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の希望があった際は、話が出来るように支援している。また、小包を送ってもらった際にはご本人がお礼の電話、リモートでお礼を言っている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感ある作品（一緒に制作した物や飾り）、活動時の写真等を掲示し季節感を感じ、掲示物を見る事により、思い出したり、考えたり、笑ったりと過ごせる様に工夫している。	居間にはソファや椅子など思い思いの場所でくつろげる様工夫している。利用者の作品や思い出の写真等が掲示されている。ベランダも広く外気に触れながら季節を楽しめる。居室前には一休みや気の合う利用者同士が語り合える椅子が設置してある。温度や湿度が管理され、清掃も行き届き清潔感のある空間である。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールにはソファや椅子など好きな場所でゆっくりできるように整えている。また、部屋の前にベンチがあり独りで数人のご利用者様同士で過ごせる様になっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・部屋にはご本人の使い慣れた家具やテーブル、椅子、道具、仏壇、写真等を置き、ご本人やご家族様の意向を取り入れた部屋作りをしている。また、定時での温度、湿度チェック、冬期間は、各部屋に加湿器を置き、エアコン調節、換気を行っている。	利用者の馴染みのものの持ち込みも出来、利用者それぞれが思いのまま家具の配置や飾りつけがなされ、掃除や温度湿度が管理され快適な空間である。各部屋には災害時に避難済みか、確認するライトが設置され、安全にも配慮されている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホール内は、段差がなく危険と思われる箇所があれば改善に努め、浴室内、トイレ、廊下に手すりを増やし、有する能力を継続して出来るように、出来なかった事にも、色々な角度から促し出来る事を見つけ自立した生活に繋がるように努めている。		